

活 動 記 録 書

開催日： 令和 2 年 1 月 10 日(金) 天候 晴	開催テーマ： 六郷の渡しから参詣道を川崎大師へ
開催場所：東京都大田区、川崎市川崎区	記入者： 田野実裕之
参加人数： 会 員 男 26 名 女 6 名 計 32 名 ビジター 男 0 名 女 0 名 計 0 名 合 計 32 名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>コース：京急六郷土手駅（集合）→六郷の渡し跡→北野天神→新六郷橋→明治天皇六郷渡御碑→万年横丁→徳泉寺→京急港町駅→医王寺→イトーヨーカドー（昼食）→池言坊→若宮八幡宮・金山神社→馬頭観音堂→明長寺→川崎大師（解散）</p> <p>大師道をたどって川崎大師に参詣するというのがテーマである。しかし、コースを見てのとおり、ガイドポイントが非常に多い。つまり、江戸時代から参詣者が多く、この道筋が賑わっていたということだろう。徳川将軍も訪れたという。ただし、量が多くなるので、ポイントを絞って記録する。</p> <p>まず、多摩川。現在は川崎側が流域となっているが、江戸時代初期には東京側にあった。その頃には橋が架けられていたが、度々流されたため、渡し船が明治初期まで使われた。鉄橋となったのは大正末で、その橋門と親柱は近くの公園に残されている。昭和末期に現在の橋に架け替えられた。明治天皇御東幸のときは、川舟 23 艘を並べて 舟橋を造り、鳳輦で渡御したという。また、下流の河川敷では、江戸時代から果実が栽培されており、梨の「長十郎」はここで発見されたとのこと。</p> <p>対岸は 六郷橋駅のあった所。ここと川崎大師間は京急発祥の地でもある。</p> <p>川崎は 江戸時代には宿場町として栄えたが、汽車が開通するようになると その勢いを失う。それを危惧した地主や豪商らは工場を誘致しようとする。その最初が横浜製糖川崎工場（現かわさきテクノピア）で、横浜港で水揚げした材料を多摩川の水運でここまで運び、砂糖を出荷したという。</p> <p>港町駅には「港町十三番地」の歌碑がある。美空ひばりの等身大の姿とレコードのジャケットが工場の巨大な写真を背景に描かれている。思わず、口ずさむ方も…。ここ（川崎市港町）には日本コロンビアの本社と工場とがあったとのこと、その曲名もここに由来するという。</p> <p>池言坊とは池上家の墓所である。日蓮は湯治に向かう途中、御家人の池上家に逗留し 入滅する。その地は池上本門寺となり、その子孫が江戸時代に大師河原に移住し、新田開発を行ったとのこと。</p> <p>川崎大師は、平安時代末に夢でのお告げにより漁師が海中より引き上げた弘法大師像を祀ったことに始まる。このため、寺は海に向かって建つ。六郷の渡し跡からの大師道は 川崎大師の裏側に出るため、参道をだいぶ行き過ぎてから戻ることになる。江戸時代には、途中にある馬頭観音堂で下馬し、右折したという。参道も境内も参詣客でごったがえす中、早々に参拝を済ませ、解散となる。</p> <p>なお、久寿餅は川崎大師の名物である。江戸時代末に大師河原村の久兵衛が偶然作出したもので、久兵衛の「久」と「ことぶき（寿）」を合わせて「久寿餅」と書くのだという。しかし、くず餅は、亀戸天神社や池上本門寺などでも名物となっているようである。ただし、いずれのくず餅も、原料は 葛粉ではなく、小麦粉とのこと。</p> <p>宿題など 昼食場所は季節がら屋外は厳しいとのことで スーパーのイトイン利用となったが、温かい麺類への注文が集中したこともあり、なかなか配膳されず、再出発の時刻がだいぶ遅れた。今回も 1 グループのみが大幅に遅れて 解散場所に到着した。全員で解散式を実施することをガイド側責任者に伝え、終了時刻を可能な限り合わせるよう配慮願いたい。</p>	
<p>参加者の状況・意見など：</p> <p>年初に関東三大厄除け大師の平間寺に参詣できたのはよかったのではなかろうか。また、天候に恵まれ、日陰の川縁以外は、寒さをあまり感じることなく歩けたことも幸いだったと思う。</p>	
<p>次回の予定： 2 月 6 日（木）10 時 金沢地区センター 2 階 大会議室（座学）</p>	